

また、第3文型と第4文型に関して、高校の英文法ではそれらの書き換え練習をすることがあります。同じ動詞では圧倒的に第4文型の使用頻度が高く、両者はニュアンスも異なります。さらに第3文型の場合は to を伴う動詞と for を伴う動詞があります。

第3文型	第4文型
gave the book to him (彼が本を受け取ったかどうか不明)	gave him the book (彼は本を受け取った)
taught English to him (英語を教えたが、彼が習得したかどうか不明)	taught him English (彼は英語を習得した)
showed the book to her (書類を見せたが、彼女が見たかどうか不明)	showed her the book (彼女は書類を見た)
sent the book to her (本を送ったが、届いたかどうか不明)	sent her the book (彼女は本を受け取った)

第4文型は結果的要素が強く、他動詞がその目的語に強い影響を与えるのに対して、第3文型は前置詞があるために他動詞のパワーが発揮できなくなり、前置詞の「ベクトル(力と方向)」に左右されてプロセス的な意味合いが出てきます。上記の動詞の場合、第4文型の方が圧倒的に多く使われます。同様に、buy you a drink、draw you a map、offer you the book (serviceの場合は数倍)は、それぞれ buy a drink for you、draw a map for you、offer the book to you よりも圧倒的に多く用いられます。

次に注意すべきことは、第3文型の他動詞とその目的語の関係の重要性です。たとえば、「雪を道路から取り除く」は clear the road of snow と clear snow from the road の2つの言い方がありますが、前者は clear と「道」との関係・影響力の強さから、「道全体がきれいになった」ことを示すのに対して、後者は clear と「雪」との関係・影響力の強さから、「雪全体が取り除かれた」ことを示します。同様に、provide them with food と provide food to them、spray the wall with paint と spray paint on the wall も、前者がそれぞれ「人々全員に食べ物を与える」「壁全体に塗る」ことを暗示するのに対して、後者はそれぞれ「手元の食べ物すべてを与える」「手元のペンキ全部を塗る」ことを暗示するわけです。ちなみに、provide them with the service も、provide the service to [for] them (to の方が頻度はやや高い) よりも圧倒的に使用頻

度が高いです。

それともう1つの注意点は、学校の英文法では give や send は to を、do や make、buy などの動詞は for (～のために) を伴うと習いますが、それは動詞の用法・文脈によって異なるということです。たとえば、They gave him a party. (彼らは彼のためにパーティを開いた) という意味では、They gave a party **for** him. となるし、「彼はその時計に100ドル払った」では、He gave \$100 **for** the watch. のように give であっても「交換」を表す“for”が用いられるので、機械的に“to”にしないように注意しましょう。また、「私は彼に時計を売った」は、第4文型では I sold him my watch. ですが、第3文型では I sold my watch to him のように、「相手に届いて所有権が移る」ことを表す“to”が用いられます。

さて、このように第4文型は、第2文型と同様に発信力をUPさせる上で非常に重要な文型であることがわかりただけだと思いますが、今度は第4文型で用いられる動詞の中で重要なものをマスターしていただきましょう。

### 3. 第4文型を作る動詞パターンを完全マスター！

#### Challenge

#### 文型クイズにチャレンジ！

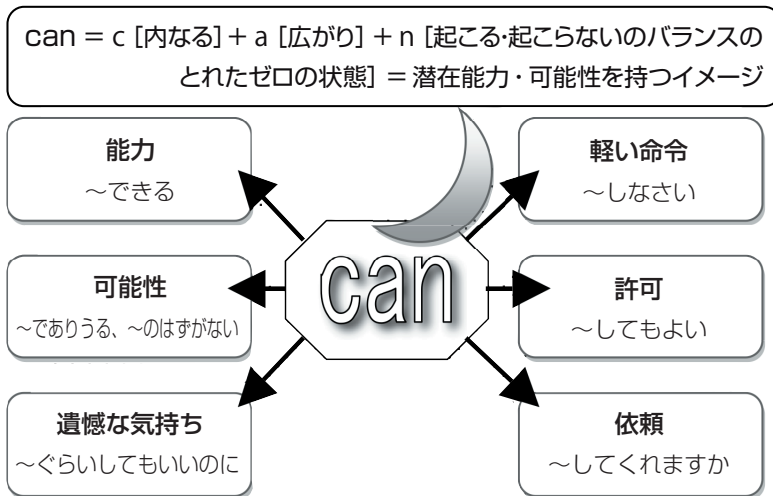
Q：次の括弧に下から動詞を選んで入れてください。

1. His parents ( ) him nothing. (彼の両親は彼に何でも与える)
2. I'll ( ) you a dinner. (夕食をおごろう)
3. His people skills ( ) him the post.  
(対人関係処理があったので、彼はその職をゲットできた)
4. He ( ) the company good-bye.  
(彼はその会社におさらばした)
5. You ( ) me a lot of favors. (君は私にいろいろ恩がある)  
(stand、land、owe、deny、kiss)

(解答) 1. deny 2. stand 3. landed 4. kissed 5. owe

③ can は可能性 —— 何かが起こる可能性がある！

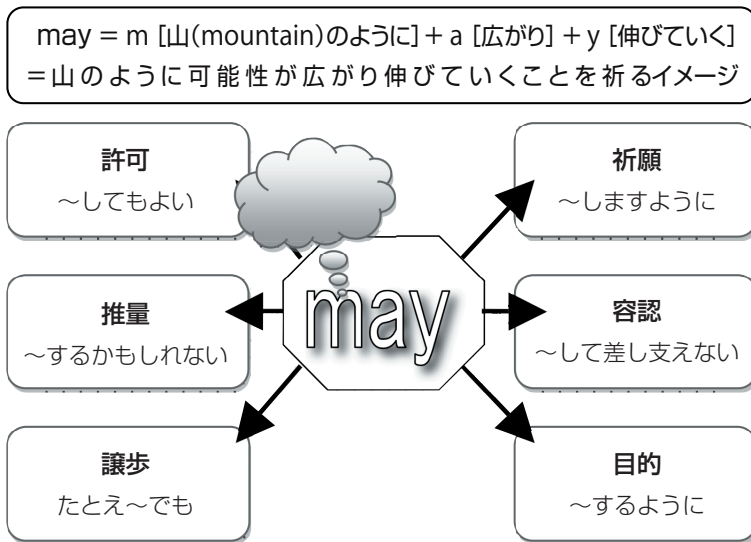
can のコンセプトは「**根拠を持った内なる可能性**」で、チャンスは50%といった「**推量**」を表します。そこから能力（＝潜在的な能力）、依頼、許可などの意味が生まれてきます。たとえば、**He can pass the exam.** は **It is possible for him to pass the exam.** の意味で、彼の日ごろの学習態度や学力などを根拠に「彼は試験に合格する可能性がある」と言っています。また、**You can use my cell phone.** は「私の携帯電話を使うことが可能である⇒使ってもよい」と「許可」を表し、**Can you close the door?** は「ドアを閉めることが可能ですか⇒閉めてくれませんか」と「**依頼**」を表しています。さらに **Can the rumor be true? It cannot be true.** 「その噂はいったい本当なのだろうか。本当であるはずがない」のように、疑問文で「いったい～である可能性があるのだろうか」と可能性に対して「**強い疑問**」を投げかけたり、否定文で「～である可能性などあるはずがない」と「**可能性のなさ**」を強調する表現になったりします。これに対して can を過去形にして弱めたのが could で、「そうなるかもしれない」と確率が25%ぐらいになってきます。



🌙 潜在的パワーを内に秘めた神秘的でクールな月のような can

## ④ may は許容性 —— そうであってもかまわない！

may のコンセプトは「許容とオプションの広がり」で、**must** の持つ選択の余地のない切迫感と違って、「**そうであってもなくてもいい**」といった、ある行為をしたり、何かが起こるのに障害がなく、どちらでもよい、どちらもありうるといった感じになります。**You may study English.** は「英語を勉強してもいいし、しなくてもいいよ」といった感じです（ただし **may** は堅い言い方で、教師と生徒など目上の者が見下の者に許可を与える言い方になるので、**can** の方がよく使われます）。また、**The rumor may be true.** は「その噂は本当かもしれないし、本当でないかもしれない」といった感じです。さらに、起こる確率が低いことの裏返しとして、**May you succeed!** 「うまくやれますように！」のような「祈願」の用法が生まれてきます。さらに起こる確率を下げたのが **may** の過去形の **might** で、前者が37.5～49% つまり40% ぐらいに対して後者はその半分の20% ぐらいになります。



☞ 何にでも形が変わる雲のような柔らかさを持つ may